

ヒマワリ（搾油用）栽培のポイント

記載事項は、いわゆる『教科書どおり』です
必ずこのとおり栽培してください、ということではありません
参考にしていただき、できるところを取り組んでください

1 圃場準備:

- ・排水対策として明渠、溝切りは必ず行い、すじ播きの場合は畝立てする
- ・草刈り、耕うん、除草剤散布等により雑草対策

2 施肥量: 全量 (10a あたり) N:P:K=8kg:10kg:8kg

元肥: 追肥 = 8 : 2 窒素主体の施用でも良い (硫安、尿素など)

3 播種: (種子配布量: 10a あたり 1kg)

- ・播種期は4月下旬～、または梅雨明け後とし、播種後の雨が望ましい
- ・梅雨入り直前や、梅雨中の播種は避ける
- ・発芽までは圃場の乾燥には特に注意し、適宜散水する
- ・発芽率向上のため「芽出し」してからすじ播きする方法も考えられます
- ・中耕を考慮して、畝の肩から約20～25cm空けて播種
- ・播種した種子を鳥に食べられることがあります
すじ播き: 播種量10aあたり200～500g
3粒まき、2条植え 条間30cm 株間35～40cm
バラ播き: 播種量10aあたり1kg

4 除草剤: トレファノサイド乳剤を播種後・発芽前に散布

200～300ml/10a を 100L 程度の水で希釈し散布

圃場が乾燥していれば、散水も兼ねて 120L 程度で希釈

5 間引き: すじ播きの場合、本葉1～2枚展開時に間引き (間引きしないと細い茎になる)

6 中間管理: 草丈20～30cm時に追肥 (窒素系) の施用と、管理機等で中耕、谷上げ 夏季の高温少雨により立ち枯れすることもあるので、適宜散水する

7 鳥害対策: 開花期以降、結実した種子の食害を防ぐため、鳥脅しや防鳥ネットを設置

8 開花・収穫: 播種後約2ヶ月で開花、開花後50日ほどで収穫となります 草丈は腰から胸まで、花のサイズは手のひら程度

9 その他:

発芽直後の若葉が鳥に食べられる害が一部圃場で発生しています
対策としては、鳥脅しや防鳥ネットの設置が考えられます